

「令和2年度 兵庫県内の市町財政の状況」



(1) 経常収支比率の状況

【資料1】 令和2年度兵庫県内各市町の経常収支比率（単年度）の状況<地図>

【資料2】 経常収支比率（単年度）の対前年度比較

(2) 実質公債費比率の状況

【資料3】 令和2年度兵庫県内各市町の実質公債費比率の状況<地図>

【資料4】 実質公債費比率の対前年度比較

(3) 将来負担比率の状況

【資料5】 令和2年度兵庫県内各市町の将来負担比率の状況<地図>

【資料6】 将来負担比率の対前年度比較

(4) 税徴収率の状況

【資料7】 令和2年度兵庫県内各市町の徴収率（個人市町村民税）の状況<地図>

【資料8】 徴収率（個人市町村民税）の対前年度比較

【資料9】 令和2年度兵庫県内各市町の徴収率（固定資産税）の状況<地図>

【資料10】 徴収率（固定資産税）の対前年度比較

【資料11】 令和2年度兵庫県内各市町の特別徴収実施率の状況<地図>

【資料12】 特別徴収実施率の対前年度比較

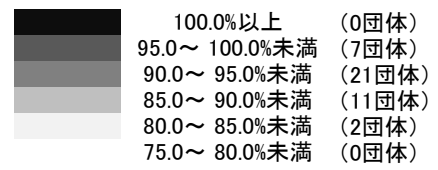
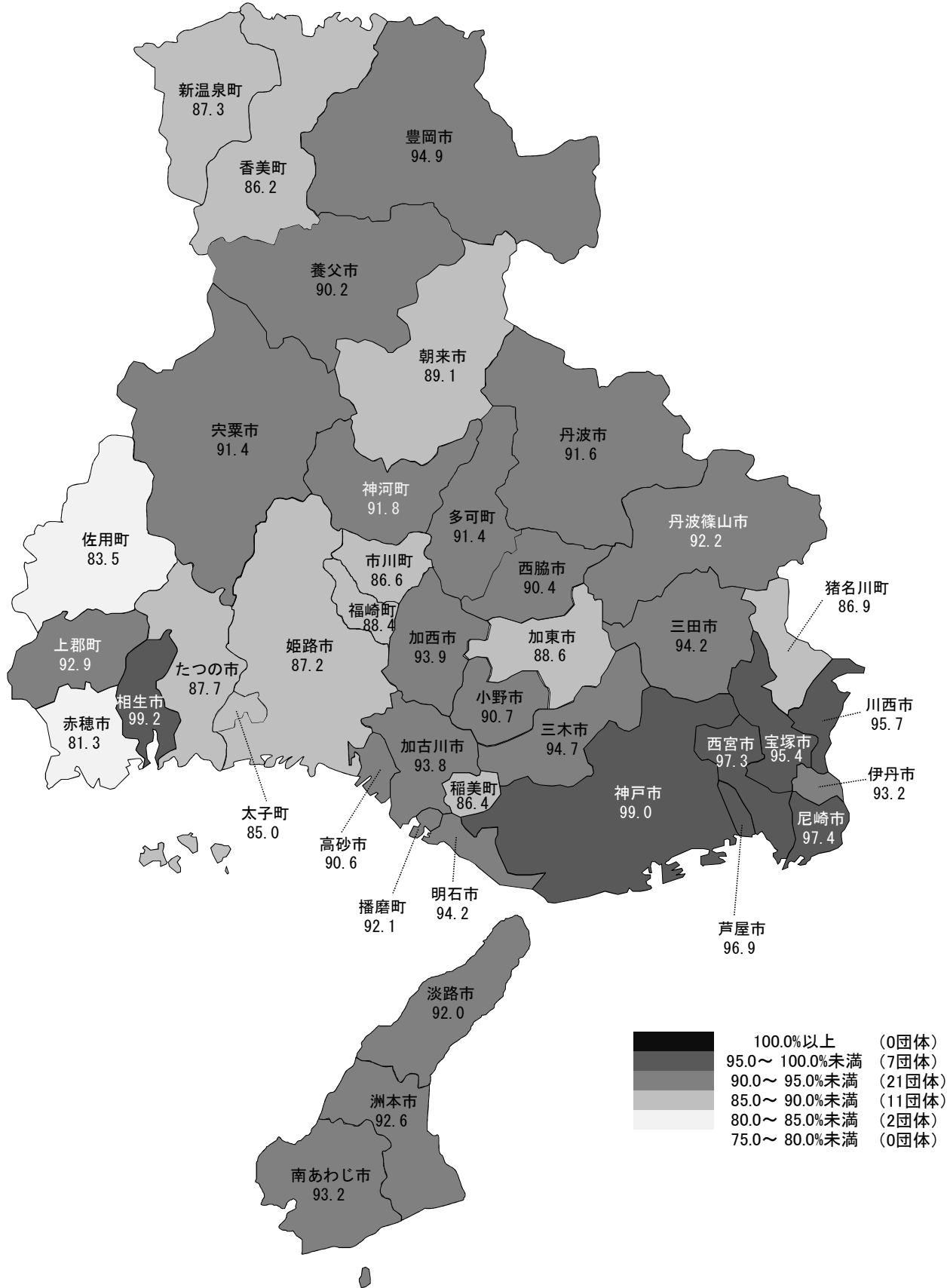
※ 参考

【参考資料①】 令和3年兵庫県内各市町のラスパイレス指数の状況<地図>

【参考資料②】 ラスパイレス指数の対前年度比較

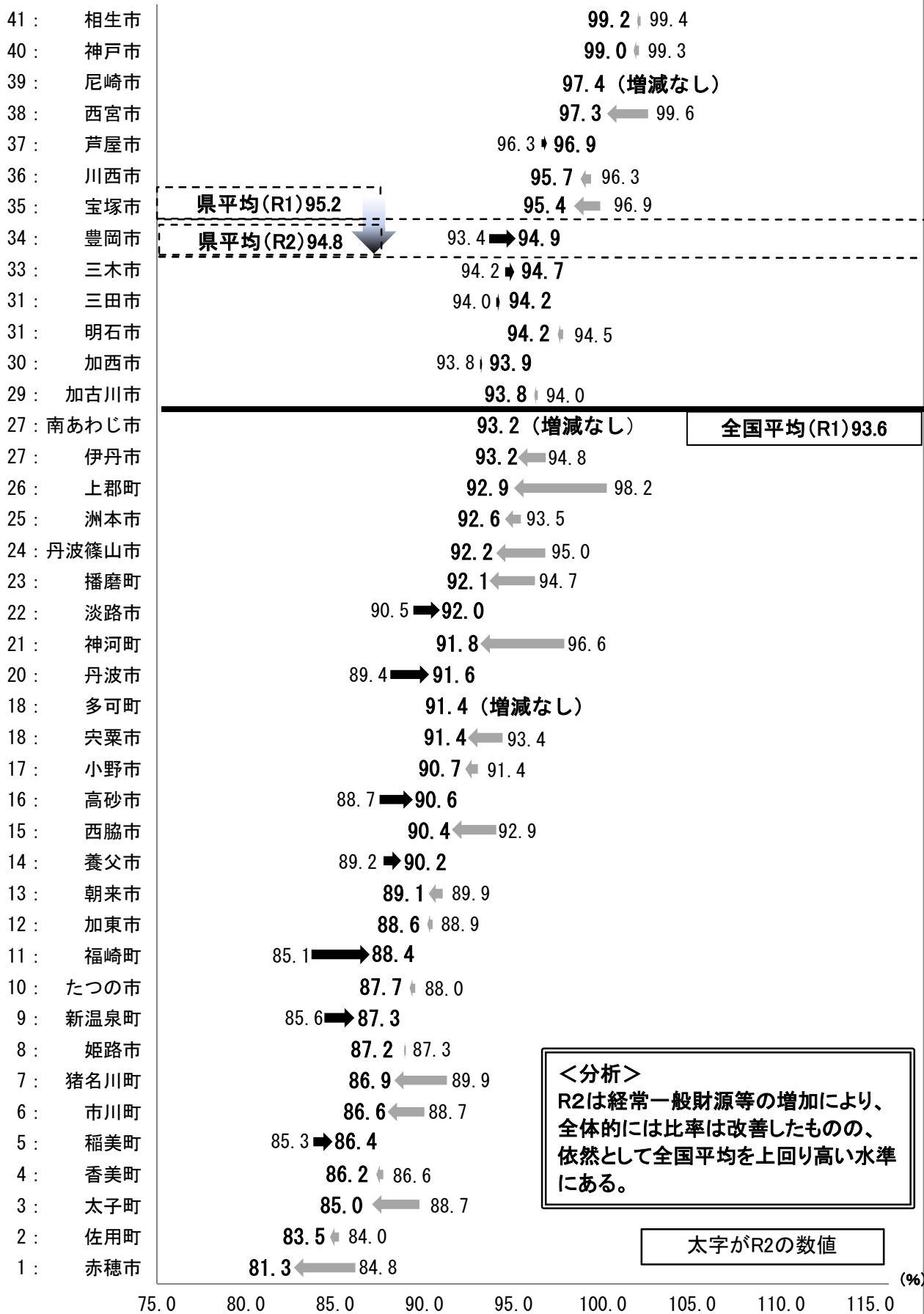
令和2年度兵庫県内各市町の経常収支比率(単年度)の状況

○令和2年度の経常収支比率の県内市町平均は94.8%(R1全国平均は93.6%)
 ○経常収支比率が最も高い団体は、市では相生市(99.2%)、町では上郡町(92.9%)
 ○経常収支比率が最も低い団体は、市では赤穂市(81.3%)、町では佐用町(83.5%)



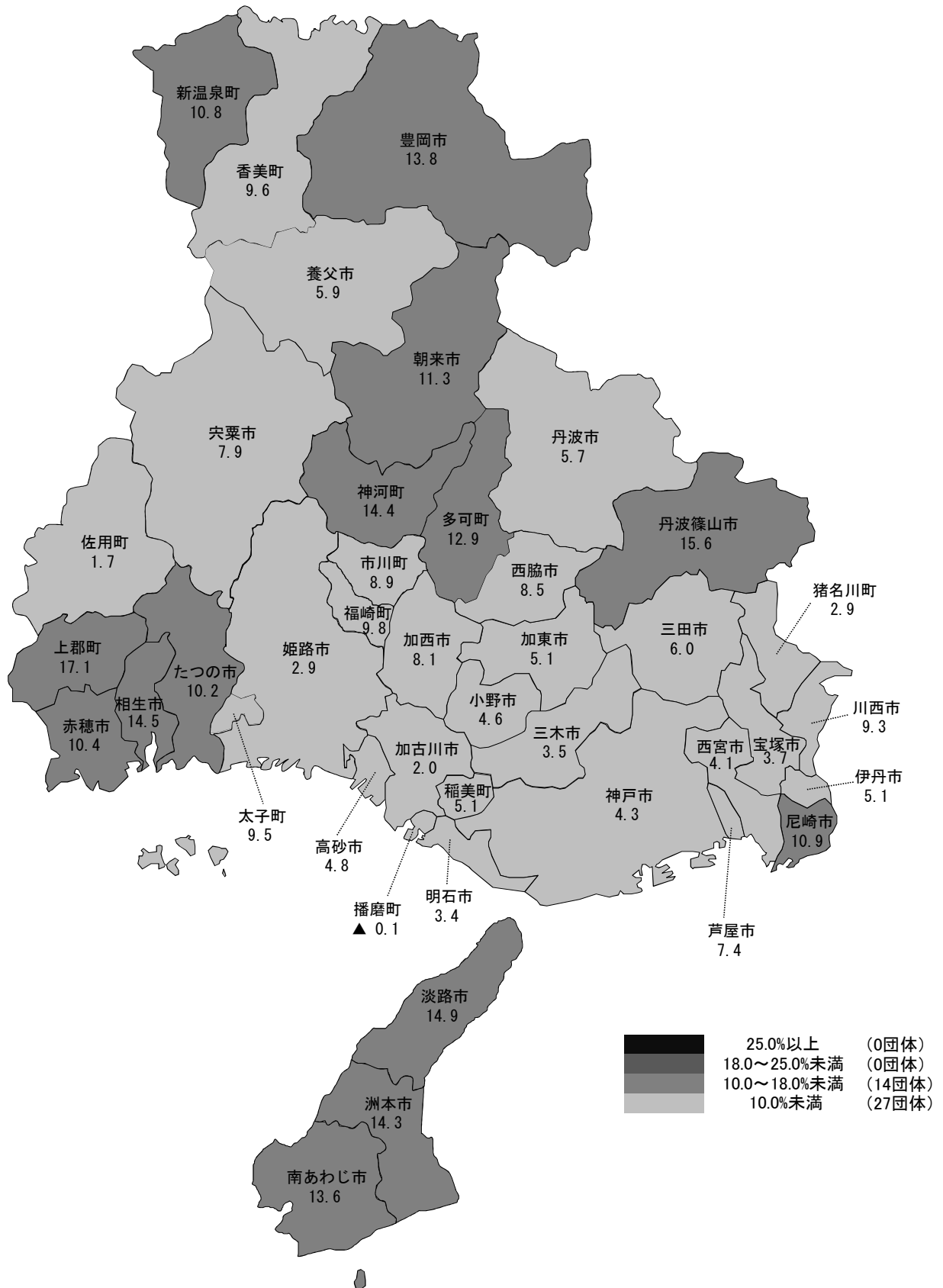
経常収支比率の対前年度比較

■前年度から比率が増加したのは12団体、比率が減少したのは26団体、3団体が増減なし。
 ■最も減少したのは、市では赤穂市(▲3.5)、町では上郡町(▲5.3)。
 ■最も増加したのは、市では丹波市(+2.2)、町では福崎町(+3.3)。



令和2年度兵庫県内市町の実質公債費比率の状況

- 令和2年度の実質公債費比率の県内市町平均は5.9%(R1全国平均は5.8%)
 ○実質公債費比率が25%以上※1の団体、18%以上※2の団体はない。
 ○実質公債費比率が18%未満※3の団体は、41市町となった。(上郡町がR1:18.4%であった。)



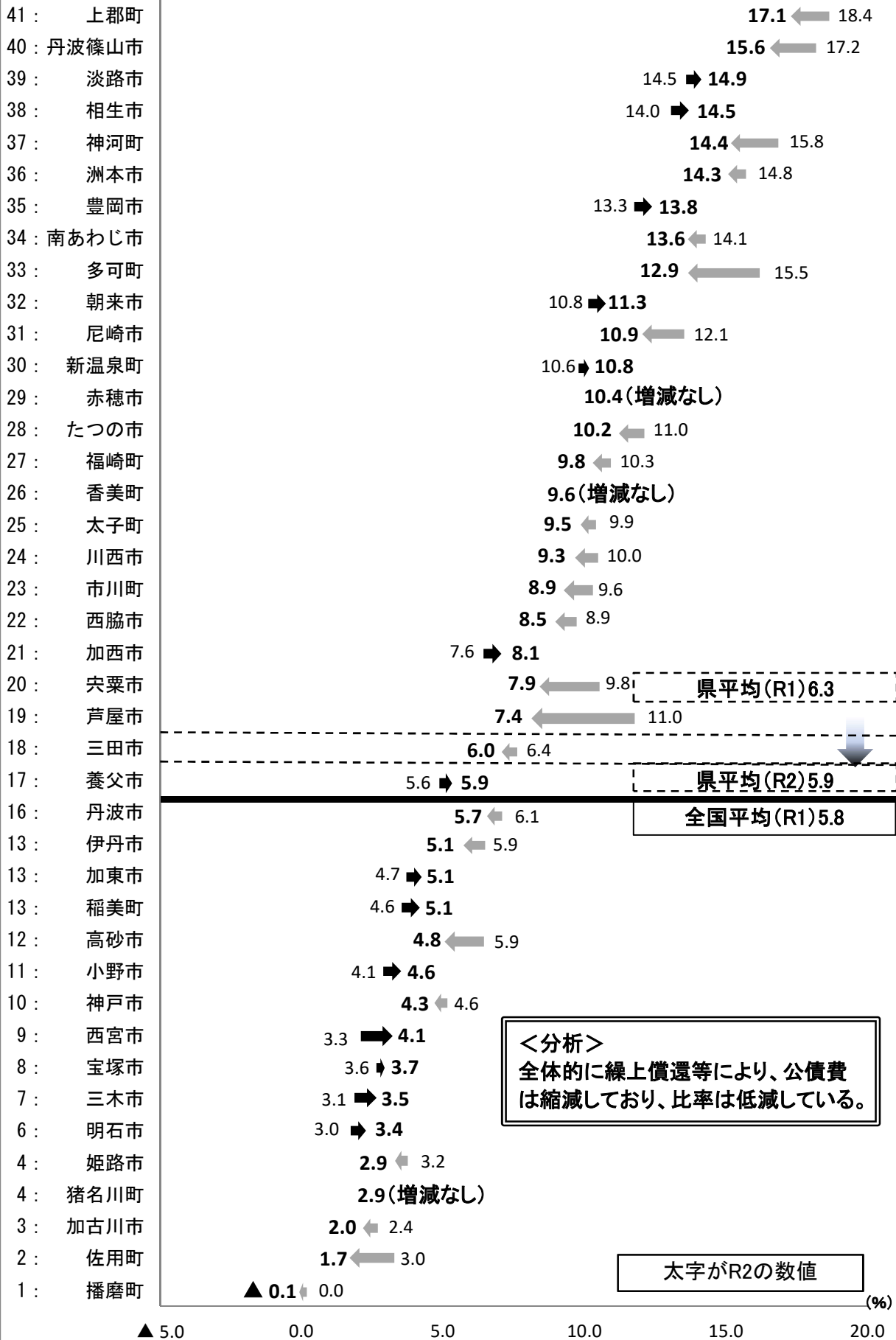
※1 実質公債費比率が25%以上35%未満の地方公共団体は、早期健全化団体となり、財政健全化計画を策定し、その内容及び実施状況に応じて起債が許可される。

※2 実質公債費比率が18%以上25%未満の地方公共団体は、公債費負担適正化計画の内容および実施状況に応じ、起債が許可される。

※3 実質公債費比率が18%未満(実質赤字額・連結実質赤字比率が0、将来負担比率350%以下等)の地方公共団体は、民間等資金の起債にあたり、原則として協議が不要となり、事前届出となる。

実質公債費比率の対前年度比較

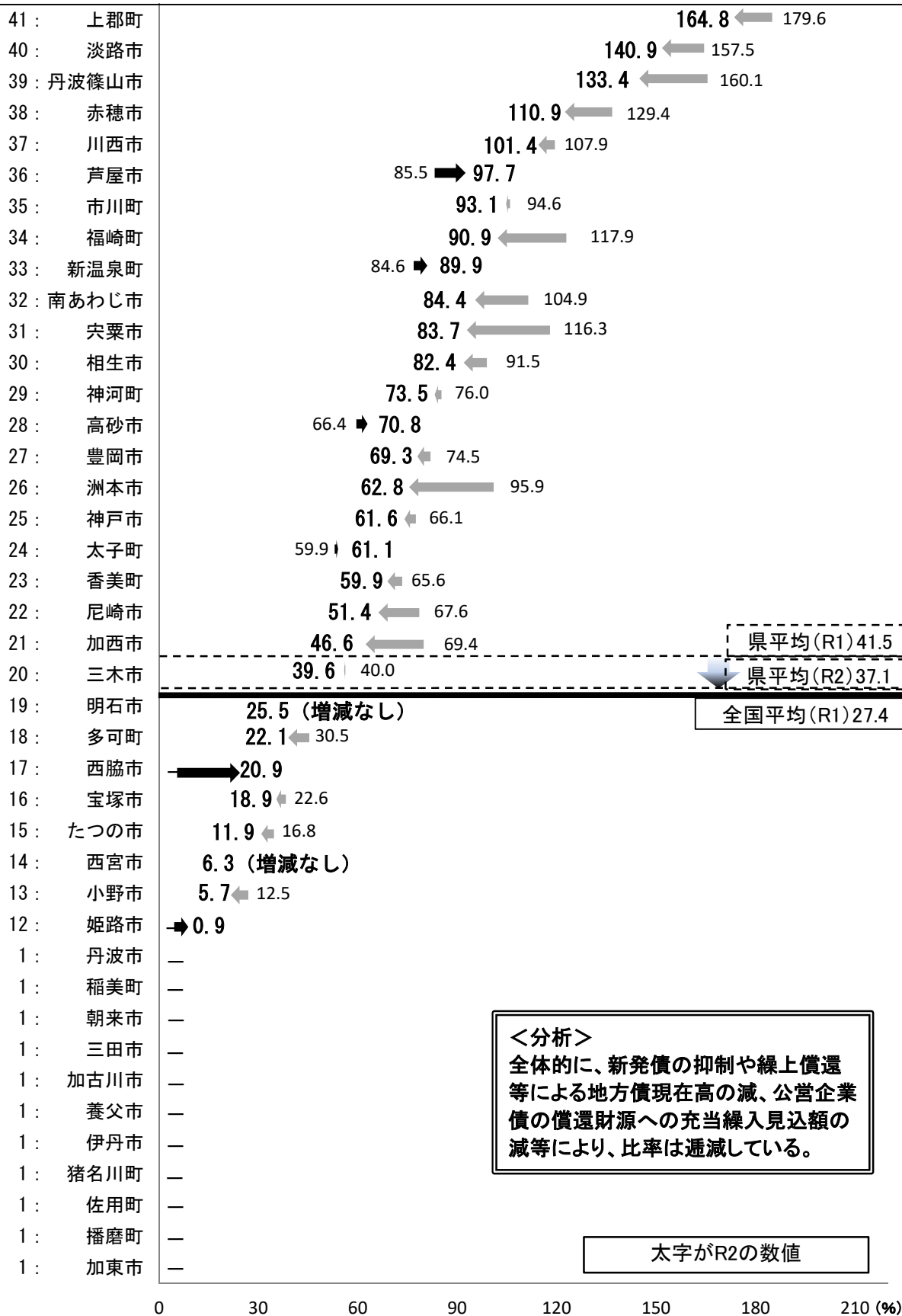
- 前年度から比率が増加したのは14団体、比率が減少したのは24団体、3団体が増減なし。
- 最も減少したのは、市では芦屋市(▲3.6)、町では多可町(▲2.6)。
- 最も増加したのは、市では西宮市(+0.8)、町では稲美町(+0.5)。



将来負担比率の対前年度比較

【資料6】

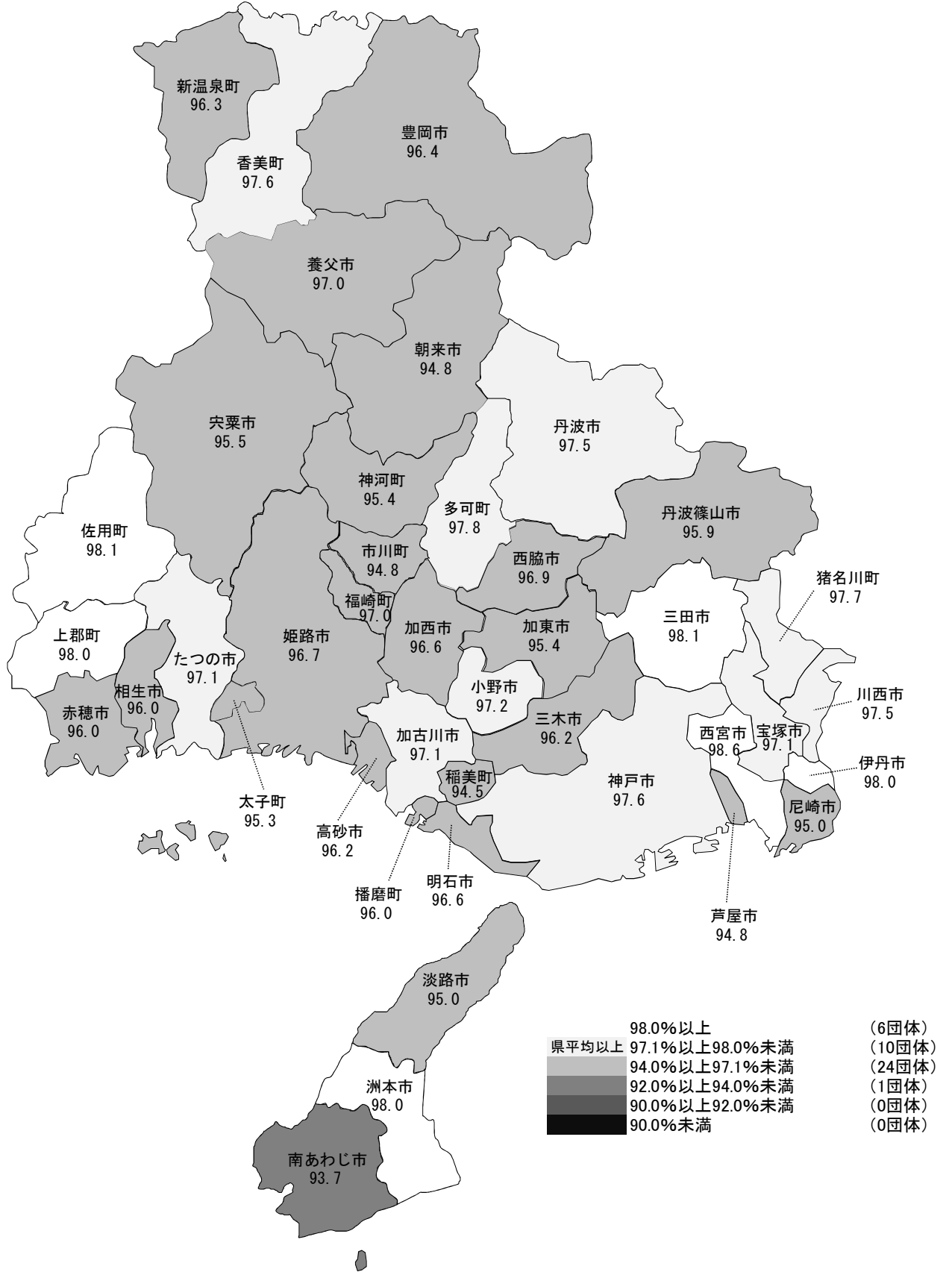
- 前年度から比率が減少したのは28団体、比率が増加したのは11団体、2団体が増減なし。
- 最も減少したのは、市では洲本市(▲33.1)、町では福崎町(▲27.0)。
- 最も増加したのは、市では西脇市(+24.6)、町では新温泉町(+5.3)。



<分析>
全体的に、新発債の抑制や繰上償還等による地方債現在高の減、公営企業債の償還財源への充当繰入見込額の減等により、比率は逡減している。

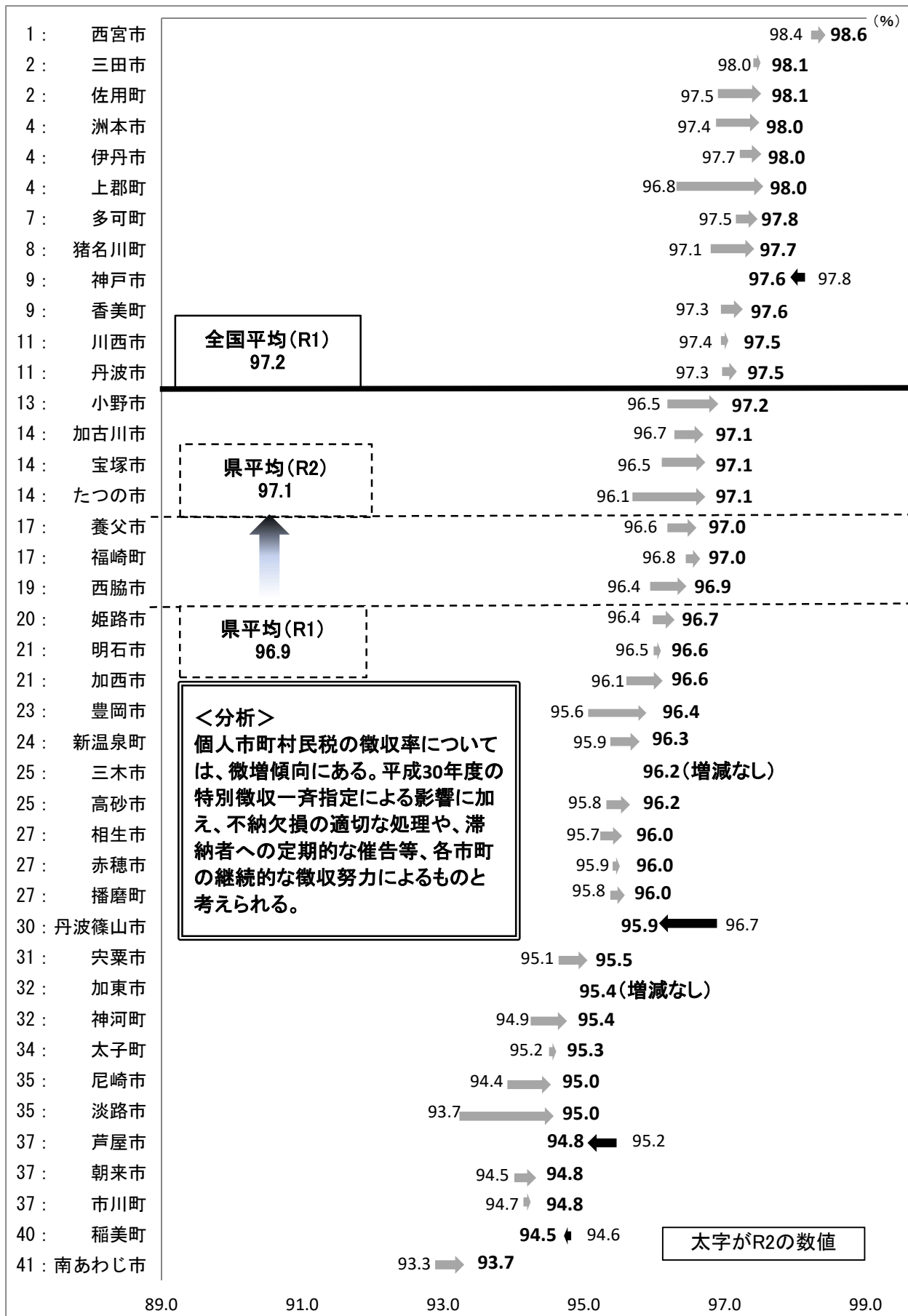
令和2年度兵庫県内各市町の徴収率(個人市町村民税)の状況

- 徴収率の県平均は97.1%(R1県平均96.9%)
- 徴収率が最も高い団体は、市では西宮市(98.6%)、町では佐用町(98.1%)
- 徴収率が最も低い団体は、市では南あわじ市(93.7%)、町では稲美町(94.5%)



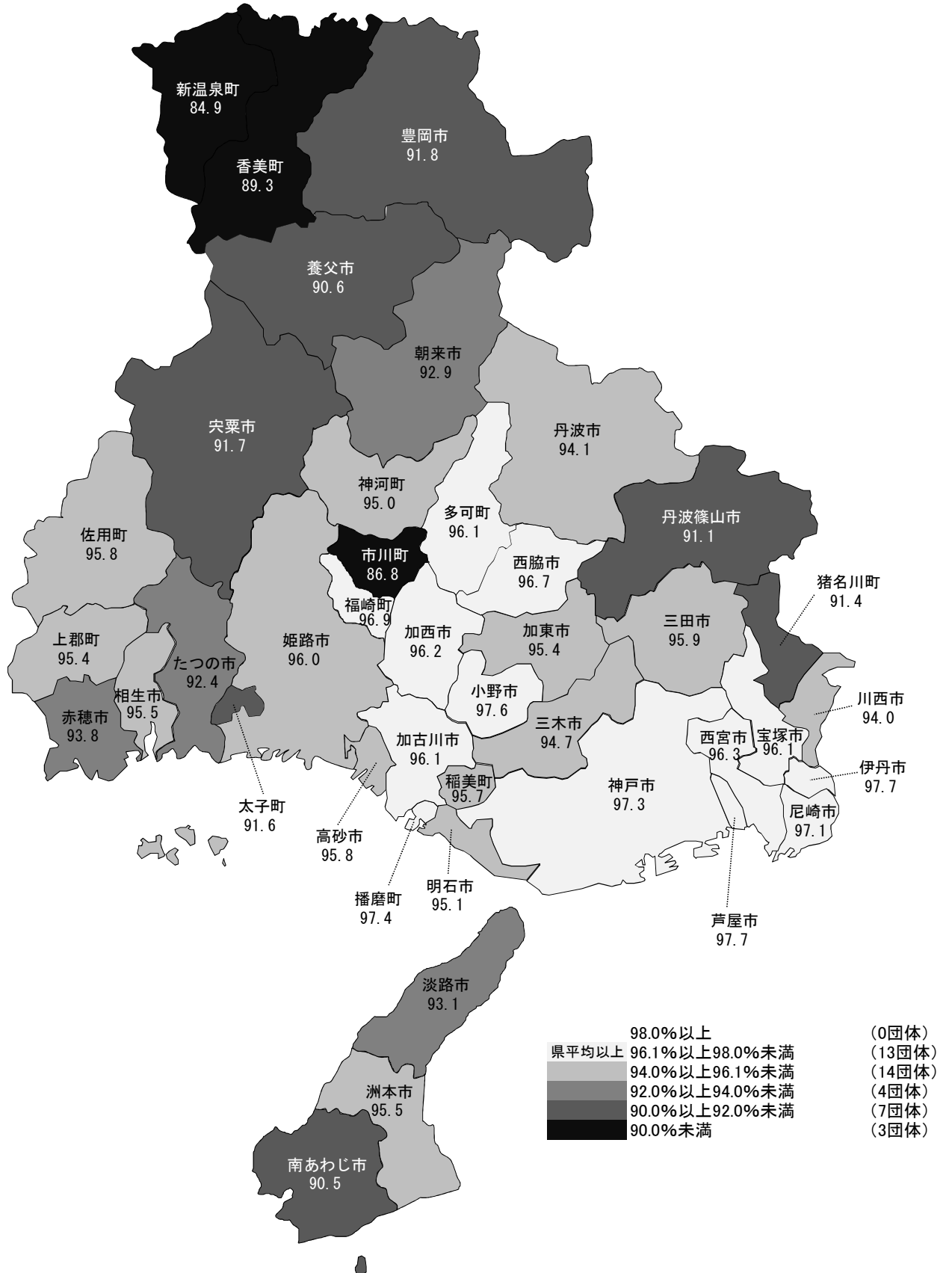
徴収率(個人市町村民税)の対前年度比較

■前年度から徴収率が減少したのは4団体、増加したのは35団体。
 ■最も増加したのは淡路市(1.3%)、最も減少したのは丹波篠山市(▲0.8%)



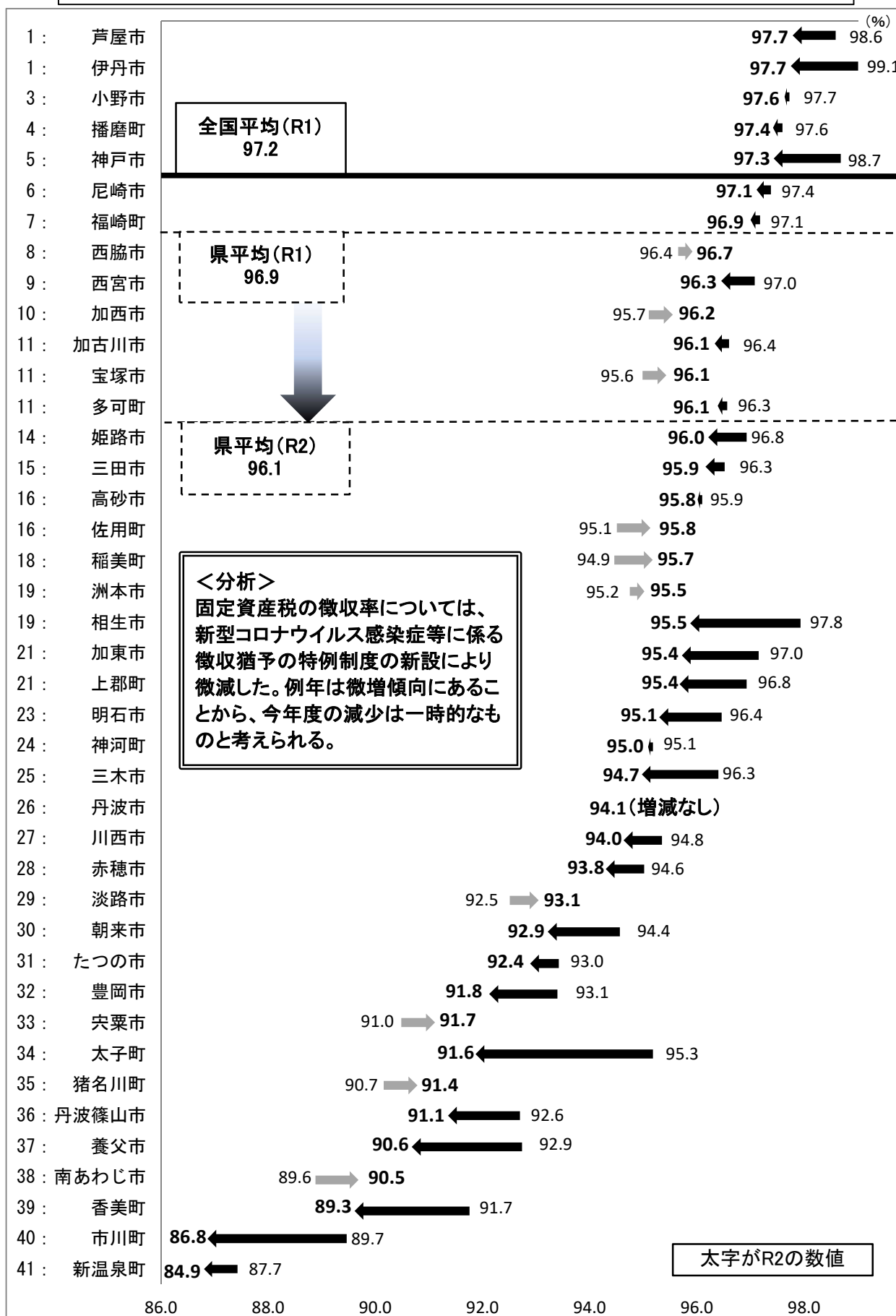
令和2年度兵庫県内各市町の徴収率(固定資産税)の状況

- 徴収率の県平均は96.1%(R1県平均96.9%)
- 徴収率が最も高い団体は、市では芦屋市、伊丹市(97.7%)、町では播磨町(97.4%)
- 徴収率が最も低い団体は、市では南あわじ市(90.5%)、町では新温泉町(84.9%)



徴収率(固定資産税)の対前年度比較

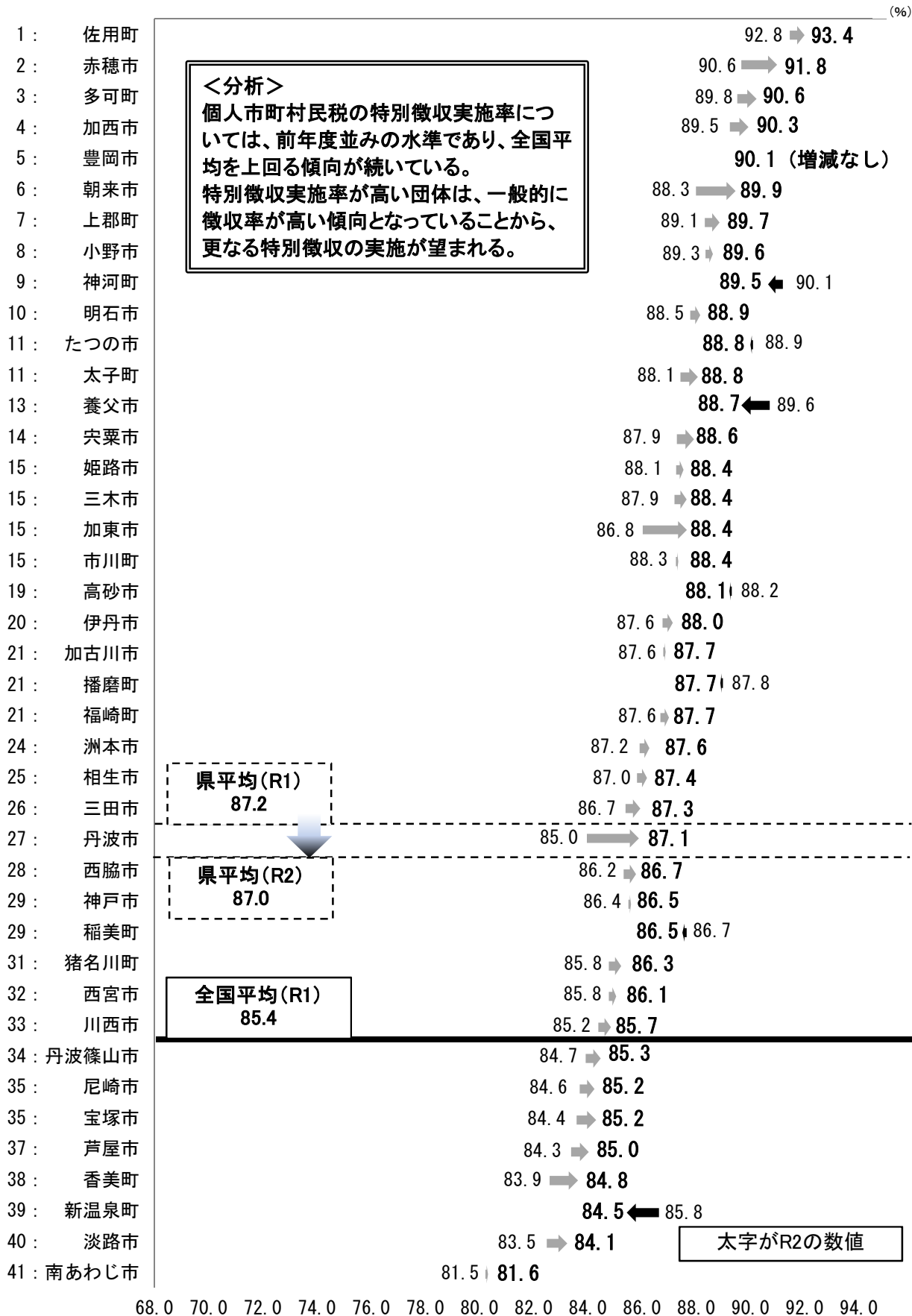
■前年度から徴収率が減少したのは30団体、増加したのは10団体。
 ■最も増加したのは南あわじ市(0.9%)、最も減少したのは太子町(▲3.7%)



＜分析＞
 固定資産税の徴収率については、
 新型コロナウイルス感染症等に係る
 徴収猶予の特例制度の新設により
 微減した。例年は微増傾向にあるこ
 とから、今年度の減少は一時的なも
 のと考えられる。

特別徴収実施率の対前年度比較

■前年度からの比率は33団体で増加した。
 ■最も増加したのは丹波市(2.1%)。

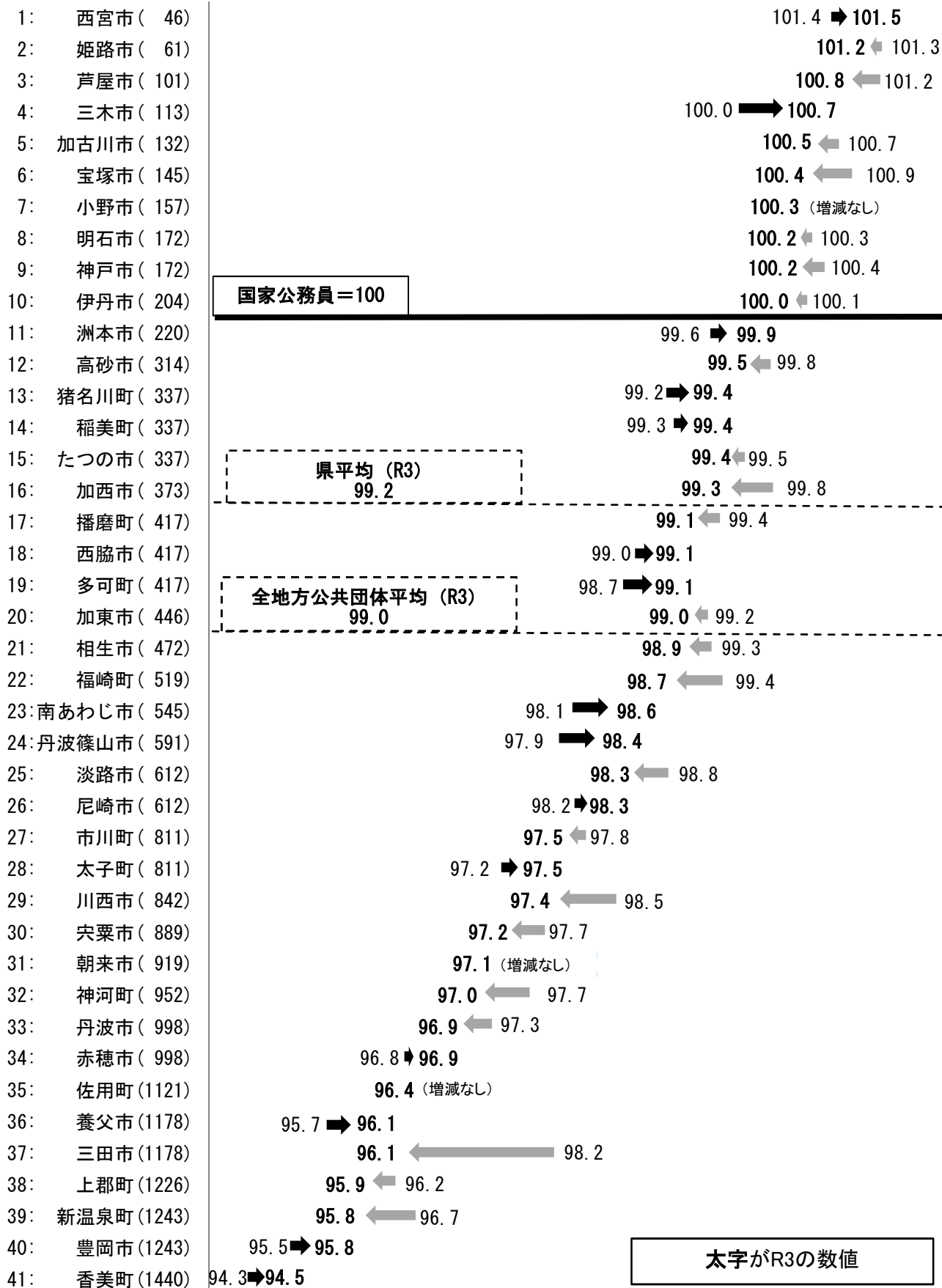


※特別徴収実施率=給与所得者のうちの特別徴収で納付している人数/給与所得者の納税義務者数

令和3年ラスパイルス指数の対前年比較

- 前年から指数が減少したのは23団体、増加したのは15団体
- 100以上の団体は、前年同様、10団体
- 最も増加したのは三木市(+0.7)

(全国順位)



太字がR3の数値

94.0 96.0 98.0 100.0 102.0